令和４年度研究構想　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　研修部

|  |
| --- |
| 自ら課題を設定し，解決する力を育む授業づくり  ～問題解決的な学習過程におけるICT活用の工夫を通して～ |

１　主題設定の理由

（１）時代の要請から

現在，社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0 時代の到来や新型コロナウィルスの感染拡大など，

先行き不透明な予測困難時代になっている。これからの社会を生きていく子ども達が，自ら未来をたくましく切り拓くためには，さまざまな課題に果敢に挑戦し，工夫改善を繰り返しながら解決していく学習経験を充実させなければならない。

「中央教育審議会第Ⅰ部総論」には「目の前の事象から解決すべき課題を見いだし，主体的に考

え，多様な立場の者が協働的に議論し，納得解を生み出すことなど，新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められている」と明記されている。「ICT を日常的に活用することにより，自ら見通しを立てたり，学習の状況を把握し，新たな学習方法を見いだしたり，自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待される。」と示さているように，自ら課題をもち、問題解決的学習を行うことと、そのためのICT活用はこれからの学校教育に必要不可欠である。

（２）学校教育目標の視点から

本校の学校教育目標は「明るく強く，心やさしくよく考える菰小っ子の育成」であり，目指す児

童像として，「明るく強い子」「よく考える子」「心優しい子」を掲げている。

本研究では，本校の重点目標である「自ら課題を設定し粘り強く取り組む子どもの育成」を具現化するために，その根幹である学力向上のための授業づくりに取り組んでいる。

また，経営の重点として挙げられている「課題解決的学習を行う日常の授業改善」や「ICTを活用した個別最適な学びの推進」を受け，研究主題を「自ら課題を設定し，解決する力を育む授業づくり」，副主題を「問題解決的な学習過程におけるICT活用の工夫を通して」と設定した。

（３）教員の実態から

　　全国的に教員の年齢構成が二極化されており，本校においても担任教諭８人中４人が若年層に位置づけられる。「若年教員の授業づくりの経験が少ない」ことや「教員の ICT 活用の指導力が求められている」という本校の課題をもとに，全教職員共同体制による組織的実践として，互いの授業を見合い，授業力を向上させる必要がある。

　　そこで，本研究主題および副主題を設定し，「課題の設定・追究・発展」による授業スタンダー

ドに基づく問題解決的な学習と ICTとの最適な組合せを研究していくことは意義深いと考える。

２　主題の意味

(１）「自ら課題を設定し，解決する力を育む授業づくり」とは

「自ら課題を設定し，解決する力」とは，子ども一人ひとりが既習の内容をもとに，新たな問いを明確にもち，自主的・自発的にその問いに対して解決しようとする力のことである。

何を用いて・どのようにして解決するかという学習方法を身に付けながら，既習の内容や方法，そして教師が与えた手がかりをもとにして課題を解決することによって，解決していくことを表現し，その過程で学んだ内容や方法を振り返ることができる授業のことである。

具体的に，次のような子どもの姿を目指す。

1. 自分の問いを明らかにし，課題意識をもち続けながらその解決を行う子ども
2. 既習の学習内容や方法を適用させながら問いの解決方法を探り出す子ども
3. 学んだ内容や方法を表記したり，友達に言葉で伝えたりすることができる子ども

３　副主題の意味

(１)「問題解決的な学習過程」とは

児童自ら課題を見つけ，自らじっくり考え，主体的に判断して行動し，よりよく問題を解決できる力を身に付けるための問題解決的な学習過程を以下のように，３つの段階で構成する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 学習過程 | 手立て |
| 課題の  設定 | 〇これまでの経験 や知識との間に疑問や矛盾を感じたことを話し合い，本時の課題をとらえる。  〇既習事項や生活経験をもとに，調べる視点をもち，解決方法や学習活動の見通しをもつ。 | ・課題のきっかけになる教材  ・興味・関心をひく場の設定  ・生活経験や実態に合った課題提示  ・課題をもたせるための発問  ・既習学習の想起  ・単元の流れの掲示物や資料提示  ・解決方法の提示  ・見通しについての交流  ・教材・教具の活用  ・資料の収集  ・資料の読み取りと整理  ・考えを表現する活動の位置付け  ・整理した情報の共有  ・他者との意見交流  ・自分の答えを再構築する場の設定 |
| 課題の  追究 | ○ 見通しをもとに，資料の活用や情報収集を行い，自分の考えをもつ。  ○ 解決に向けて話し合い，思考を共有したり，友だちの考えを取り入れたりする。  〇自分の考えを見直して，課題に対する答えを再構築する。 |
| 課題の  発展 | ○課題について分かったことを自分の言葉でまとめ， 分かったことを生かして適用問題を解く。  ○新たな課題を明らかにし，次の課題へと発展させる。 |

(２）「ICT活用」とは

　　学習過程における「課題の設定・追究・発展」の段階の効果的な場面でICTを活用することで，

交流・情報収集・共有・再構築を行うことができる。

活用方法については，以下の４つの方法で整理している。

　【学習におけるICTの活用方法の例】

|  |  |
| --- | --- |
| Ａ　提示・可視化 | 電子黒板に大きく提示することで，子どもの視線を集め，指示を明確にすることができる。また，動画を提示したり提示物を操作・書き込みしたりすることで，説明や発表を行うことができる。事象や課題を写真や映像を活用して提示することが可能である。 |
| Ｂ 調査・記録 | 電子黒板やタブレットがインターネット接続されることで，世界中の情報を入手し，データとして保存できる。タブレットのカメラ機能を使うと，観察情報を写真や動画で収集・記録でき，新たな気付きにつなげることができる。 |
| Ｃ 交流・協働 | 授業支援システムを使うことで，教材ファイル等を子ども機(子どものタブレット）へ配布したり，子どもが作成したデータ等を教師機(教師用タブレット）に回収したりすることができる。また，資料などを表示した画面を子どものタブレットに転送することもできる。このことで，多様な考えを全体で共有でき，共通点，相違点等について交流することで，多面的で深い理解につなげていくことができる。 |
| Ｄ 試行・操作・制作 | 子どもにとってタブレット上の操作は，やり直したり繰り返したりすることが容易で，試行錯誤しながら考えをまとめていく際に役立てることができる。 |

４　研究の目標

　問題解決的な学習過程におけるICT活用の工夫を通して，「自ら課題を設定し，解決する力を育む授業づくり」の在り方を究明する。

５　研究の仮説

問題解決的な学習過程において，ICTの活用の工夫を行えば，児童が自ら課題を設定し，解決する力を育むことができるであろう。

６　研究の着眼

　「問題解決的な学習過程におけるICT活用の工夫」

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 学習過程 | ICTの活用例 |
| 課題の  設定 | 問いを設定し，既習を意識化する | 〇資料の提示 |
| 課題の  追究 | 資料の理解を深める  理解を深め，問いの答えをつくり出す(交換・統合する）  表現をみつける | 〇情報収集，表現，記録，既習内容の想起  〇調査，知識の獲得  〇情報の共有，意見の分類，整理，最適解の検討 |
| 課題の  発展 | 再度自分の考えをつくる | 〇学習の振り返り  〇学習後のアンケート，レポート作成，類似・応用問題などによる知識の定着 |

７　研究構想図

|  |
| --- |
| ＩＣＴの活用 |
| たかめる段階  ・類似問題、応用問題 |
| まなびあう段階  ・情報の共有、分類、整理  ・情報の検討 |
| さぐる段階  ・情報収集、  ・知識の獲得、調査 |
| つかむ段階  ・資料の提示 |

【目指す児童像】

明るく強い子（体）　よく考える子（知）　心やさしい子（徳）

【研究主題】　　自ら課題を設定し，解決する力を育む授業づくり

～問題解決的な学習過程におけるICT活用の工夫を通して～

解

決

す

る

力

の

向

上

|  |
| --- |
| 活動構成 |
| たかめる段階  ・自分の考えを振り返る。  ・高次の問題への追求  ・新たな課題の設定 |
| まなびあう段階  ・ |
| さぐる段階  ・既習を生かした課題追究 |
| つかむ段階  ・問いの設定  ・見通しを持つ |

**思考力・判断力・表現力の向上**

**課題意識の高まり**

児童の実態・生活経験・既習の知識・技能

８　研究の進め方

（１） 研修部から「事前研（模擬授業）・公開授業・事後研（ワークショップ型による協議会）」の

流れを示し、全教職員で共有する。

（２）（１）の流れで、提案授業者による公開授業を実施する。

（３） 低学年部会・高学年部会の２部会に分かれ、事前研・授業観察・事後研を行う。

（４） 研究授業（年１回）以外にも、学校訪問や学習参観などの機会をとらえ、授業づくりを相談で

きる部研を行い、授業改善と人材育成の推進を図る。

（５）３学期には、今年度の研究体制のまとめとして、部会で事前研、全教職員参加で公開授業・

事後研を行う。（外部講師を招聘する場合もあり）

　【事前研】　・授業づくり

　　　　　　　・指導案審議

　　　　　　　・模擬授業（板書・発問・掲示物等）

　【公開授業】１学期　提案授業（全体で、事前研・公開授業・事後研）　：　１名

　　　　　　　２学期　各部で事前研・公開授業・事後研　：　７名

　　　　　　　３学期　部で事前研、全体で公開授業参観・協議会（研修を含む）　：　１名

　【事後研】　・ワークショップ型の協議会の実施

　　　　　　　　（研究の柱に沿った成果と課題を各自で記入し、協議を行う）

　９　研究の組織

　〇研修推進委員会(校長・教頭・主幹教諭・低学年部・高学年部・研修担当）を構成する。

　◎各部のリーダー

研修推進委員会

全　体　会

|  |
| --- |
| 低学年部会 |
| 山中  〇廣方  〇石橋  ◎外﨑  〇教頭 |

|  |
| --- |
| 高学年部会 |
| ◎花元  　田中  　田原  　増田  〇主幹 |

　　　　　　〇校長

１０　研究の計画

第一年次（令和４年度）

〇　研究主題における理論研修を行う。

〇　問題解決的な学習過程の課題設定場面を中心に，ICTの活用を工夫した授業づくりを行う。

第二年次（令和５年度）

〇　研究主題における理論研修を行う。

〇　問題解決的な学習過程の課題追究場面を中心に，ICTの活用を工夫した授業づくりを行う。

第三年次（令和６年度）

〇　自ら課題を設定し，解決する力を育む授業づくりについての効果的な評価の在り方について

明らかにする。

〇　問題解決的な学習過程の課題発展場面を中心に，ICT活用を工夫した授業づくりを行う。

※各年次において，主題の見直しを行う。